

護景雲の四字あり、いづれも漢土の例に倣ひたるにや、文字の美惡義理などは、勿論吟味講究して、古人の論辨したるを考索し、紀元あるべき事と覺ゆ、漢土にて改元の誤を論じたるは、明の燧和仲が千百年眼卷二に國家以改元爲重、然歴世無窮、美名有限、遂有前後相複之嫌、中略又當詳稽國運、如宋改治平而說者謂火德不宜用水、則我朝土德不宜用水、犯之者有耗損元氣之嫌、又當審國姓、如周高祖姓字文改元宣政、當時以爲文亡日是也、又當避忌國號、如唐禧宗改元廣明、而當時以爲去其口、而著黃家日月、後果爲黃巢所篡是也、大率離合之懺、深微難逃、最宜熟察、桓玄改元大亨、說者以爲、一人二月了、果二月乘輿反正于江陵、梁豫章王據武陵王紀皆改元天正、說者謂二年一年止といへり、其他齊後主緯は龍化と改元し、隋煬帝は大業と改元し、宋徽宗は宣和と改元し、欽宗は靖康と改元し、各皆其徵を載せたり、又正の字はたゞしき字義なれど、一止を合せて正とすれば、正始、正隆、正平、正曆、正法の類、皆古徵にあらずといへり、正の字も用ひどころによるべし、此邦改元ある毎に難陳といふ事あるは、専らに此等の事を是非せむが爲なるべし。

〔東大寺正倉院文書四十二〕裏書藥師經料紙充

道守豊足 十四張○中略 右、依造寺次官佐伯宿禰、天感元年五月卅日宣所奉寫

○按ズルニ、天感ハ、天平感寶ヲ略書セルナリ、

〔續修東大寺正倉院文書四十二〕裏書花嚴經斷紙合八千九百九十張 麻紙三千一百冊張

治田石磨充一千六百張既榆紙○中略 已上五人充遣九百九十張 麻紙百八十張 感寶元年潤五月七日、秦東人

○按ズルニ、感寶ハ、天平感寶ヲ略書セルナリ、

〔續修東大寺正倉院文書七〕裏書天平感寶元年六月十五日充墨半廷、筆一、二年七月五日、墨半廷上已